

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 8月23日更新

事務事業名		歯科保健事業					☐ マニフェスト 関連		☐ 全庁横断 課題関連		☐ 集中改革 プラン関連		
総合 計画 体系	政 策	2	福祉の健康					所属部	健康福祉部	課長名	末永 大樹		
	施 策	5	健康づくりの推進					所属課	健康ほけん課	担当者名	有田 奈央		
	施策の柱	20	病気の早期発見					所属班	健康づくり班	(内線)	1185		
予算科目		会計 一般	款 4	項 1	目 2	事業連番 11719	根拠 法令	健康増進法					
終了、開始年度		☐ 5年度で終了		☐ 5年度から開始			事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 期間限定複数年度		☒ 単年度繰返 (開始年度 29 年度) (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	●フッ化物塗布 ①対象者：1歳の誕生日～2歳の誕生日前日までの者 ②実施方法：対象者自身が直接医療機関へ予約し通知文書を持参し受診する。料金は無料。③実施回数：1年間に2回。 ④周知方法：個別通知。 ●フッ化物洗口 ①対象者：年長児および年中児②実施方法：週5回、歯みがきの後に1分間、洗口液を用いてうがいをする。年に1回、各保育園・幼稚園において保護者へ歯の健康講話の実施や年に1～2回、歯科衛生士による訪問指導を実施している。 ●歯周疾患検診 ①市内歯科医院と委託契約(令和5年度：20カ所)②費用：2,954円、自己負担無料③対象者：4月1日時点で、40・50・60・70歳の市民、1歳児の保護者 ④期間：6月1日～3月末日⑤内容：歯科検診、歯肉の検査、歯科指導等⑥方法：対象者自身が直接医療機関へ予約し通知文書を持参し受診する。 ●歯科保健連絡協議会【目的】生涯にわたって口腔の健康を維持することで健康的な日常生活を過ごすことを目的として、市では各ライフステージにおける歯科保健事業を展開している。委員：11名。 ※令和元年10月より妊婦歯科健診は少子化対策総合交付金事業に移行し実施。 令和6年度より(11719) 歯科保健事業と(11827) 乳幼児歯科保健事業に分割。
【業務の流れ】	●フッ化物塗布：歯ぐきカードの印刷→対象者に通知→委託医療機関への支払い ●フッ化物洗口：関係機関(園、歯科医院、歯科衛生士等)と連携をとりながら、保護者への説明及び申し込みにて実施。園歯科医師による指示書作成。月に1回、実施報告書の提出があるため、各施設の実施状況の把握。年に1回、保護者へ歯の健康講話と園へ歯科衛生士を派遣し、指導を行う。薬剤と物品を購入・保管・管理している。 ●歯周疾患検診：①市内歯科医院と契約25月頃、対象者への受診票を個別通知する。③受診後、委託機関へ支払い事務④検診データの入力及び整理 ●歯科保健連絡協議会：会議日程調整、委員委嘱状交付の起案及び会議開催の起案、通知発送、会議資料作成、会議実施、会議録作成、報償費の支払い、欠席者に会議録の送付
【主な予算費目】	報償費、需用費(消耗品費、印刷製本費、医薬材料費)、役務費、委託料
【意見や要望】	・フッ化物塗布の利用者からは、2回目も利用したい、ブラッシングの相談もできてよかった等の意見がある。一方仕事復帰後休みがとりにくく行けていないとの意見もある。 ・フッ化物洗口実施園では、園児のむし歯が減っているとの評価が聞かれる。 ・市内歯科医師より、歯周疾患検診受診率向上のために周知方法・検診方法の見直しをする必要があると言われている。 また、自己負担徴収により、患者負担が増えて受診率の低下につながることから、自己負担無料での検診を実施するよう言われている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO)		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
●フッ化物塗布：むし歯予防の一環として、1歳～2歳の誕生日前日までの者を対象に医療機関に委託し実施した。今年度の実施者数402人だった。 ●フッ化物洗口：18園の実施希望があり、希望時期に合わせて開始した。保護者向けの歯の健康講話は9園実施した。保護者155人、園児100人が参加した。11月からフォローアップ指導を実施しており、3月までで17園が実施した。園児523人が参加した。 ●歯周疾患検診：歯周疾患予防のため市内歯科医院(21カ所)と契約し、40、50、60、70歳の対象者及び1歳児の保護者へ個人通知を行い実施した。通知発送時期は5月下旬とし、6月1日より受診可とした。受診者数は364人、11.4%だった。1歳保護者の受診率0人だった。 ●歯科保健連絡協議会：8月に予定していたが台風接近により中止。書面決議とした。		●フッ化物塗布：委託歯科医院で実施を継続。 ●フッ化物洗口：実施園の拡大を目指し、園データの集計や実施園の取り組み状況等を未実施園に示していく。 ●歯周疾患検診：令和5年度同様、実施。R4年度に変更した対象、1歳児の保護者も継続し、若い世代の受診につなげていく。また、各世代の市民へのさらなる啓発を行う。 ●歯科保健連絡協議会：開催予定 令和6年度より(11719) 歯科保健事業と(11827) 乳幼児歯科保健事業に分割。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア：塗布者数+フッ化物洗口実施者数	人	令和6年度機構改革により事業が2課に分かれ、(11719) 歯科保健事業と(11827) 乳幼児歯科保健事業に分割されたことによる減
→ イ：歯周疾患検診受診者数	人	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
●フッ化物塗布：1歳の誕生日～2歳の誕生日前日までの者		→ ア：1歳6ヵ月～3歳児の数+年中・年長の幼児数
●フッ化物洗口：年中児および年長児		→ イ：歯周疾患検診対象者数
●歯周疾患検診：40歳・50歳・60歳・70歳の市民、1歳児の保護者		
●歯科保健連絡協議会：市が行う歯科保健事業(幼児フッ化物塗布、フッ化物洗口、幼児歯科健診、妊婦歯科健診、歯周疾患検診)		
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
●フッ化物塗布・洗口：むし歯にならないようにする。(う歯の保有率の低下)		→ ア：小学校1年のむし歯保有率
●歯周疾患検診：むし歯・歯周疾患の早期発見ができる。		→ イ：歯周疾患検診の受診率
●歯科保健連絡協議会：協議会メンバーによる助言、協議のもと、市歯科保健事業が円滑に運営できる。		
*③成果指標設定の理由と6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
●フッ化物塗布・洗口：フッ化物塗布・洗口を行うことにより、う歯保有率に良い影響があるかを把握するため、小学校1年生におけるむし歯の保有率を成果指標として設定した。 ●歯周疾患検診：自覚症状のない時期に、検診を受診することで、むし歯・歯周疾患が早期に発見できる。受診率が向上することが早期発見につながるため、成果指標とする。		0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標	ア 人		666	737	2,000	952	2,000	2,000	2,000	2,000	
	イ 人		491	463	600	364	600	600	600	600	
② 対象指標	ア 人		3,475	3,753	3,500	3,378	3,876	3,990	3,990	4,137	
	イ 人		3,941	3,226	3,900	3,200	3,300	3,300	3,600	3,400	
③ 成果指標	ア %		0.1	1.75	1.8	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	
	イ %		12.4	12.6	16	11.4	16	16	16	16	
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円	900	1,011	1,004	1,279	1,230	1,477	1,477	
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計	一般財源	千円	1,298	1,289	2,028	1,217	719	2,088	2,088	2,088
		(A)のうち指定経費	千円	2,198	2,300	3,032	2,496	1,949	3,565	3,565	3,565
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	6	4	5	2	5	5	5	5
		延べ業務時間	時間	1,090	170	1,000	105	1,000	1,000	1,000	1,000
	(B)人件費計		千円	4,261	647	3,984	382	3,984	3,984	3,984	3,984
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,459	2,947	7,016	2,878	5,933	7,549	7,549	7,549	

事務事業名	歯科保健事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康ほけん課
-------	--------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の事後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 ・フッ化物洗口・塗布だけに頼らないよう、ブラッシング指導にも力を入れている。 ・歯周疾患検診受診率を上げるために、未受診者へ再勧奨通知を実施し、受診者の増につながったが、より多く受診するように周知方法を検討していく。
	② 6年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 次年度も、むし歯保有率の低下と歯周疾患検診の受診率向上を目指す。そのためにも、歯の健康に対する意識を少しでも高めていけるよう、講話や広報・ホームページ等での周知を図る。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・フッ化物塗布・洗口では、幼児期に園児や保護者に対する歯科指導の機会も増えるため、指導内容を充実させて、さらなるむし歯予防効果を高める。 ・歯周疾患検診では広報・ホームページなどで周知を図る。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似した事業はない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 専門的知識と技術を要するため、委託して実施している。また、最小限の事業費で実施しているため削減はできない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・フッ化物塗布は歯科医院で実施しており単価契約である。 ・洗口については、保育園や幼稚園で対応しておりフォローアップ指導では健診のスタッフを配置している。 ・歯周疾患検診は、契約方法、支払い事務等最低限の職員で実施している。 ・歯科保健連絡協議会は必要最小限の委員構成としている。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・フッ化物塗布・洗口については対象を限定しているが、予防的事業であるという目的のため適切である。 ・歯周疾患検診は各年代での検診機会を設けている。また、自己負担無料のため、公平・公正である。
	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 ・フッ化物塗布は、歯科医院に委託している。フッ化物洗口については、園職員に実務を任せており、役割分担は適正である。 ・歯周疾患検診は、専門的技術・知識を必要とするため、委託医療機関にて実施している。よって、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

就園時から歯の健康講話やフッ化物洗口を実施することで、就学後までの継続した歯科保健事業が展開できている。幼児期からむし歯予防に対する意識を高めている。また、歯周疾患検診が歯周病やむし歯等を早期発見・早期治療する機会となっているため、今後も経過計画通り実施する。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐廃止

☐休止

☐目的再設定

☐事業統廃合・連携

☒事業のやり方改善（有効性改善）

☐事業のやり方改善（効率性改善）

☒事業のやり方改善（公平性改善）

☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

歯周疾患検診に20歳、30歳が新たに対象者として追加される。受診率向上のための再勧奨をする。

(2) 改革・改善による期待成果
（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

受診率向上の低迷が続いているため、引き続き再勧奨通知を行い、通知文の見直し等を行っていく。